

地域との「絆」を大切に

私は、7月中旬、久井稲生神社で400年余り続く伝統行事「祇園祭り」の杖使いに初めて参加しました。

祇園祭りは、スサノオノミコトをまつる神社にほうのうされる祭礼であり、1522年に、高根山城主であった山名氏が稲生神社に参拝した時、ほうのうしたことがはじまりだったそうです。今では、久井町の夏を彩る夏祭りとなっています。杖使いは、頭に鳥毛のようなかざりに、はちまき・たすき・はかま姿の独特な衣装で踊ります。

現在は、少子高齢化で踊り手が少ないため、地域の方々には、伝統を伝えていくために一生懸命教えてくださいます。私達はその思いに応え、伝統を受け継ぎ、次の世代に伝えていかなければいけないと思います。

当日は、町内町外からもたくさんの方が、稲生神社に訪れていました。踊り終わった後、知らない人から、「よかったよ。」と、笑顔で声をかけられました。「ありがとうございます。」と、素直な気持ちで返せました。ほんの少しの会話だったけれど、とてもうれしくなりました。

練習前までは正直、参加したくなかったけれど、一生懸命練習し、踊り終わった後は、とても暑く、同時に、すがすがしい達成感を味わえ、言葉で表せないくらいうれしい気持ちになりました。

この3日間の練習や踊りをする中で、大切なことを学びました。それは、伝統だけではなく、地域の方々との「絆」です。今では踊りを教えてくださった方々や、地域の方々が、「元氣かあ。」と、肩をちょんちょんとして、「勉強がんばれよ。」と、声をかけてくださいます。私は生まれてから今まで、いつも家族以外にも地域の方々、学校の先生方、皆さんにお世話になり、温かく見守られているということを強く感じました。私達は、地域の方の支えがあり、そして、この町とともに、生かされ、

かがやき、成長しているんだと思います。私達は、大人のように、働くことや、ふるまうことはできないけれど、地域の伝統を受け継ぎ、伝えていくことはできると思います。みんなが手をつないで、助け合い生きていける、温かい人間社会を目指して、努力して、小さなことを積み重ねがんばっていききたいと思います。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第28回 —

今の自分を見つめて

「今日は、卒業式までちょうど3か月前の日ですよ。」と先生に言われて、私は、はっとしました。そして、今の自分を振り返ってみました。

1学期、2学期の学習の仕方は、5年生の時から大きく成長していると思います。そのわけは、ペアワークやグループ学習の話し合いを通して自分のまちがただでなく、どこでどのようにまちがえたのか詳しくわかるようになったからです。もう一つは、これまでになかった発表が、たくさんできるようになったからです。発表することで、まちがえている所を教えてもらえたり、共感してもらえたりして、すごく自信がつけました。

次に、クラスや学年の団結を振り返ると、「努力は、たし算」「協力は、かけ算」の目標に向かって、楽しくやる時は楽しく、本気でやる時には本気で、クラス全体ができるようになったことです。でも、学年全体では、まだ少し課題もあったなあと反省することもできました。

最後に、卒業に向けて、これからの私たちの課題は3つあります。一つ目は、もっとみんなで団結し、中学でも仲良くなれるようになっていくということ。

二つ目は、自分のしなければならぬことを自分で考え判断して、次のことを考えて行動すること。三つ目は、自分だけでなく周りの人のことも考えて行動することができるようになることです。

他にも、やりきらないといけない課題はたくさんありますが、この3か月を自分なりに工夫して一生懸命過ごすことは、私にとってとても大切になると思います。だから、時間を大切に使いながら、悔いの残らない卒業式を迎えたいです。

